

EUSI メールマガジン Vol. 013

「クロアチアの EU 加盟とピラン湾の境界画定問題」(川崎恭治)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)

http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 009】

「クロアチアの EU 加盟とピラン湾の境界画定問題」

川崎恭治(EUSI 所長・一橋大学大学院法学研究科教授)

クロアチア共和国は、1991年6月25日に、隣国のスロヴェニアと同時に、旧ユーゴスラビアから独立した。クロアチアは2013年の7月に28番目のEU加盟国になることが予定されているが、クロアチアの加盟交渉が難航したのは、スロヴェニアとの間でのピラン湾における境界画定問題が大きく影響していた。

ピラン湾は、アドリア海の最奥部に位置し、イタリア、スロヴェニア、クロアチアの海岸線に面している。領海の幅は、国連海洋法条約第3条で12海里(1海里は1,852m)を超えてはならないとされており、隣国との領海の境界線の画定は、原則として、等距離・中間線によるものとされている(同第15条)。問題は、ピラン湾において等距離・中間線で3国間の境界を画定したとすると、真ん中のスロヴェニアの領海がイタリアとクロアチアのそれにすっぽりと囲まれてしまい、スロヴェニアは、他国の領海を通過しないと公海に出られなくなってしまう、ということにある。

スロヴェニア国籍の漁船あるいは軍艦が、他国領海を通過すること自体は、国際法上禁止されているわけではない。最近、尖閣諸島の領海を中国の船が侵犯したと報じられているが、領海侵犯というのは紛らわしい用語で、一般に外国船舶は他国領海内では「無害通航権」(同17条)を有しているので、領海に立ち入ったことそれ自体ではなく、立ち入り方が(日本にとって)「無害」ではないことが問題となっている。

しかし他方で、無害通航権を行使できるのだから何の問題もないかということすらでもない。・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol09.pdf>

【EUSI イベントご案内】

EUSI シンポジウム「EU の対外関係」

日時: 2012年10月23日(火) 13:00-17:30

場所: 一橋大学 国立西キャンパス 佐野書院

言語: 英語

参加無料・事前申込不要

「リスボン条約以降のEUの共通通商政策」C・ヘアマン (パッサウ大学教授)

「EUと日本間のFTAと政治協定」中込正志 (外務省国際法局条約課長)

「EU の対外活動における諸原則」 中西優美子 (EUSI、一橋大学教授)
http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20121023_symposium.html

EUSI ワークショップ「法的側面からの金融危機」

日時: 2012 年 10 月 25 日(木) 15:00-17:00
場所: 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー5 階 3503
言語: 英語
参加無料・事前申込不要
「欧州金融憲法の改革」 クリストフ・ヘアマン (パッサウ大学教授)
http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20121025_workshop.html

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

林秀毅(EUSI 主任研究員)
「スペインとギリシャ、どちらが「狼少年」か？」
銀行監督一元化案と ESM 発足後の展開
『欧州債務危機レポート』(日本経済研究センター)2012 年 10 月 11 日
<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi/index121011.html>

【EU に関するニュース】

- 2012 年 10 月 1 日 アシュトン EU 上級代表、同日のカンボジア司法当局の民主活動家に対する有罪を憂慮と声明
- 2012 年 10 月 2 日 ハイレベル有識者グループ、EU の銀行部門の構造改革に関する報告書を欧州委員会に提出
- 2012 年 10 月 2 日 アシュトン EU 上級代表ら、前日のグルジア議会選挙結果に対して祝意を発表
- 2012 年 10 月 3 日 欧州委員会、「単一市場議定書 2」を承認。12 の重要行動を提言。今年単一市場発足 20 周年
- 2012 年 10 月 3 日 欧州委員会、EU のレジリエンス(危機耐性)に対する新たな政策コミュニケーション提出
- 2012 年 10 月 3 日 欧州委員会・アシュトン EU 上級代表、民主主義に移行する国々への EU 支援強化を提案
- 2012 年 10 月 3 日 欧州委員会、ナノ材料に関する第 2 回規制評価についてのコミュニケーションを採択
- 2012 年 10 月 4 日 欧州委員会、欧州の原発耐性評価結果を発表。高度な安全性維持の一方で更なる改善を要求
- 2012 年 10 月 4 日 EU 理事会、エネルギー効率強化に向けた新たな共通枠組を採択
- 2012 年 10 月 4 日 EU 域内の主要銀行・通信会社・中央・地方政府へのサイバー攻撃シミュレーション訓練実施
- 2012 年 10 月 4 日 アシュトン EU 上級代表、シリアのトルコ国境攻撃を強く非難する声明
- 2012 年 10 月 6 日 日・EU 科学政策フォーラム「日本の新しいエネルギーミックス 信頼できる政策構築に向けて」
- 2012 年 10 月 8 日 ユーログループ財務相会合、ルクセンブルクで開催。ポルトガルの財政健全化を評価
- 2012 年 10 月 8 日 EU とユネスコ、教育・文化・化学・人権に関する新たな連携協約に調印
- 2012 年 10 月 8 日 アシュトン EU 上級代表、ベネズエラ大統領選挙の民主主義的な実施に対し賞賛する声明発表
- 2012 年 10 月 9 日 EU 経済・財務相理事会、ルクセンブルクで開催。ポルトガル財政健全化期限 1 年延長を決定
- 2012 年 10 月 9 日 EU 及び 27 加盟国駐日大使、翌日の世界死刑廃止デーを前に日本を含む全世界に死刑廃止を訴え
- 2012 年 10 月 9 日 アロシュ博士(仏)、ノーベル物理学賞。欧州研究会議(ERC)助成金や EU 研究枠組で積極的役割
- 2012 年 10 月 9-10 日 駐日欧州連合代表部、高齢化の諸課題と日欧の政策対応に関するシンポジウムを開催
- 2012 年 10 月 9-10 日 ゲオルギエヴァ欧州委員(危機担当)、防災と開発に関する仙台会議にて講演・討論
- 2012 年 10 月 9-14 日 IMF・世銀年次総会東京で開催。レーン副委員長、ピエバルグス、ゲオルギエヴァ両委員来日

- 2012 年 10 月 10 日 欧州委員会、EU 拡大に関し、マケドニアとの加盟交渉やアルバニア加盟候補国地位を条件付勧告
- 2012 年 10 月 10 日 アシュトン EU 上級代表、欧州及び世界死刑廃止デーで欧州評議会事務総長と共同声明発表
- 2012 年 10 月 11 日 ゲオルギエヴァ欧州委員(危機対応)、JICA で「レジリエントな社会の構築に向けて」講演
- 2012 年 10 月 11 日 欧州委員会、アフリカの角へ 3000 万ユーロの追加人道支援を発表。レジリエンス強化のため
- 2012 年 10 月 11 日 欧州議会国際貿易委員会、日・EU EPA 交渉開始を承認するも、自動車部門への懸念も表明
- 2012 年 10 月 12 日 EU、ノーベル平和賞受賞決定。「60 年以上欧州の平和や民主主義・人道推進に貢献」のため
- 2012 年 10 月 12 日 アシュトン EU 上級代表ら、10 月末のウクライナ議会選挙の民主性・透明性確保に向けて声明
- 2012 年 10 月 12 日 IMF・世界銀行年次総会、世界銀行主催「ユーロとヨーロッパ 構造の強化」セミナー開催
- 2012 年 10 月 12 日 レーン欧州副委員長(経済通貨問題担当)、「ユーロ圏と日本 これからの行方」講演
- 2012 年 10 月 12 日 欧州衛星測位システム GALILEO の本格運用に向け、実証衛星 2 基(IOV-3・4)打上げ実施
- 2012 年 10 月 13 日 IMF・世界銀行年次総会、「ユーロ圏の強化」セミナー開催
- 2012 年 10 月 15 日 アシュトン EU 上級代表、シアヌーク・カンボジア国王逝去に対し哀悼声明
- 2012 年 10 月 15 日 EU 外務理事会、ルクセンブルクで開催。対シリア・イラン制裁強化などを決定
- 2012 年 10 月 15 日 EU 不正対策局、ダツリ欧州委員の絡む不正苦情調査報告提出。証拠不十分も、翌日ダツリ辞任

【編集後記】

今、ブラッセルでこの編集後記を書いています。

EU のノーベル賞後、現地でも戦争を二度と起こさないという欧州統合の原点に戻り、現在の経済危機に対しても、各国が協力して取り組もうと言う雰囲気徐徐に変わりつつあるように思います。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

アルフレッド・ノーベルが生きていた時代は、19 世紀中旬から下旬にかけての頃でした。当時はビスマルク時代のヨーロッパであり、奇しくもノーベルがダイナマイトを発明した年(1866 年)に普墺戦争が起こり、その後も普仏戦争や露土戦争、英独軍拡競争といった時代をひた走り、ヨーロッパに平和をもたらすことなど想像もできない頃だったように思われます。

このような絶えず戦争を繰り返してきたヨーロッパの時代に比べれば、戦後の欧州統合とは史上画期的な試みであり、EU は平和賞の名に相応しいヨーロッパ市民による努力と叡智の結果であるように思われます。

無論 EU やヨーロッパに問題がないわけではなく、現在も様々な問題を抱えながらも、国境を越えた制度化、民主主義の実践、通貨や社会における信頼性の確立などを、今後も模索し続けてゆくのだろうと思います。

欧州統合の父ジャン・モネが述懐したように「ヨーロッパを作るということは平和を作ることなのだ」との言葉を胸に、先人たちから受け継いだヨーロッパ市民の精神に敬意を表したいと思います。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
